



# ウィーン・ミュージカルの 概要と楽しみ方 (補筆版)

その歴史と  
日本未公開を含む全11作品

2026年5月9日

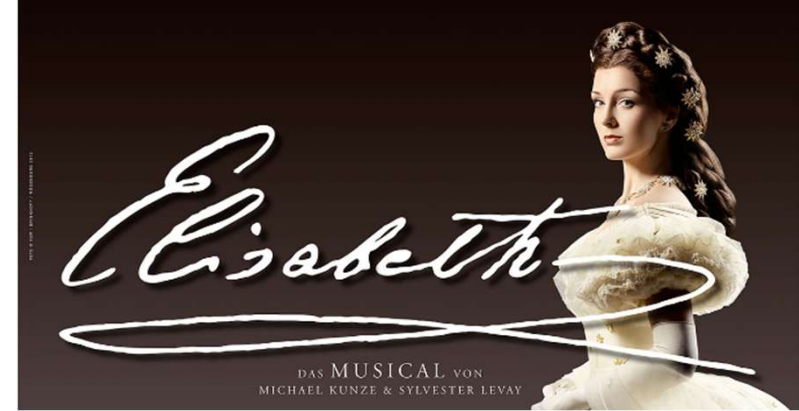
<https://www.vbw-international.at>

# ウィーン・ミュージカルとは

- ❑ オーストリアのミュージカルはウィーン市が1987年に100%出資し設立したウィーン劇場協会（Vereinigte Bühnen Wien：VBW）により運営されている
- ❑ VBWはドイツ語ミュージカルを、ロンドン、ニューヨークに並び立つグローバル化を目指し、1990年代からオリジナル作品をこれまでに11作品制作、そのうち8作品を海外へ輸出し翻訳上演のライセンスに至っている
- ❑ 輸出8作品は欧州内20カ国（イギリスを含む）、アメリカ、アジア3カ国の計24カ国で、延べ2万7千回以上公演され、3千万人以上が観劇している（VBWホームページ）
- ❑ 輸出作品は、現地語への翻訳とともに、現地での大衆向けに大幅な演出の改訂を認め、その結果、日本ではスターシステムを取り入れた独自演出やストーリーの解釈をウィーン版から変更すること等が行われ大きな成功を収めている（田中里奈「マリー・アントワネット」興行史）
  - 日本：7作品（エリザベート、ダンス・オブ・ヴァンパイア、モーツァルト、レベッカ、ルドルフ、貴婦人の訪問、I am from Austria）を宝塚と東宝が翻訳・独自演出で上演
  - 韓国：4作品（エリザベート、モーツァルト、レベッカ、ルドルフ）を翻訳・独自演出で上演
  - 中国：2作品（エリザベート、モーツァルト）を原語のまま上演
  - アメリカ（ブロードウェイ）：1作品（ダンス・オブ・ヴァンパイア）英語 2002年に56公演のみ
  - イギリス（オフ・ウエストエンド）：1作品（レベッカ）英語 2023年9～11月

# エリザベート - 愛と死の輪舞

## Elisabeth - Caught in Love's Deadly Triangle



- ウィーン・ミュージカル最大のヒット作品であり、ウィーン・ミュージカルの金字塔
- 舞台は19世紀後半のオーストリア、ハプスブルク帝国の末期
  - 孤独な女王エリザベートはハプスブルク家の愛と自由のために戦うが、擬人化された「死」（トート）が慰めとなっていく、帝国支配の終焉期
- 制作：VBW、脚本・作詞：ミヒャエル・クンツェ（ドイツ人）  
作曲：シルヴェスター・リーヴァイ（ハンガリー人）、演出：ハリー・クプファー（ドイツ人）
- 初演：1992年 ウィーン、アン・デア・ウィーン劇場（6年間のロングラン）
- 公演：14カ国、9千回以上、12百万人以上が観劇
  - 欧州：オーストリア、ドイツ、ベルギー、チェコ、フィンランド、ハンガリー、イタリア、リトアニア、オランダ、スウェーデン、スイス（11カ国）
  - アジア：中国、日本、韓国（3カ国）
  - 言語：ドイツ語、チェコ語、オランダ語(フレミッシュ)、フィンランド語、フランス語、ハンガリー語、リトアニア語、スウェーデン語、日本語、韓国語（10カ国語）
- **日本初演**
  - 宝塚 1996年 翻訳：黒崎勇、演出：小池修一郎ほか
  - 東宝 2000年 訳詞・演出：小池修一郎

# ダンス・オブ・ヴァンパイア

## Dance of the Vampires



- 1967年のイギリスのホラー喜劇映画「吸血鬼」のミュージカル化、映画で監督・主演だったフランス人のロマン・ポランスキーが演出した（同映画で共演し夫人となったシャロン・テートの悲劇とポランスキーのその後も有名）
  - 吸血鬼ハンターが宿屋の娘を巡って吸血鬼と奪い合う、吸血鬼を主人公に人間との欲望の対決をロックミュージックにのせ熱狂の中で歌い踊る
- 制作：VBW、脚本・作詞：ミヒャエル・クンツェ、作曲：ジム・スタインマン  
演出：ロマン・ポランスキー、コーネリアス・バルタス
- 初演：1997年 ウィーン、ライムンド劇場（2年4カ月のロングラン）
- 公演：15カ国、10千回以上、10百万人以上が観劇
  - 欧・米：オーストリア、ドイツ、ベルギー、チェコ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ハンガリー、ポーランド、ロシア、スロバキア、スイス、アメリカ（14カ国）
  - アジア：日本（1カ国）
  - 言語：ドイツ語、チェコ語、デンマーク語、オランダ語(フレミッシュ)、エストニア語、フィンランド語、フランス語、ハンガリー語、ポーランド語、ロシア語、スロバキア語、英語、日本語（13カ国語）
- **日本初演**
  - 東宝 2006年 翻訳：迫光、竜真知子、演出：山田和也

# モーツァルト！

## MOZART!



- オーストリアが生んだ世界で最も有名な作曲家ウルフガング・アマデウス・モーツァルトの一生、類まれな才能と父との葛藤、伝説となって行く自分自身と破滅
  - モーツァルトの苦悩を、大掛かりなセットデザインとともに、過去と現在を対比させる衣装（モーツァルトを取り巻く人たちのクラシックな装いとモーツァルトの現代的な若者のスタイル）、クラシック音楽とロック音楽の対比に乗せて描く
- 制作：VBW、脚本・作詞：ミヒャエル・クンツェ、作曲：シルヴェスター・リーヴァイ、演出：ハリー・クプファー、デニス・カラハン
- 初演：1999年 ウィーン、アン・デア・ウィーン劇場（1年8カ月のロングラン）
- 公演：10カ国、2.5千回以上、3.2百万人以上が観劇
  - 欧州：オーストリア、ドイツ、ベルギー、チェコ、ハンガリー、リトアニア、スウェーデン（7カ国）
  - アジア：中国、日本、韓国（3カ国）
  - 言語：ドイツ語、チェコ語、オランダ語(フレミッシュ)、ハンガリー語、リトアニア語、スウェーデン語、日本語、韓国語（8カ国語）
- **日本初演**
  - 東宝 2002年 翻訳・演出：小池修一郎（初めて主人公にダブルキャスト制を採用）

# レベッカ

## REBECCA - To Light from Darkest Shadows



- 英国人作家ダフニー・デュ・モーリエのミステリー小説をヒッチコックが1940年にスリラー映画化したものをVBWがミュージカル化、海外に多く輸出された成功した作品のひとつ
  - 暗い過去を持つ億万長者の紳士に恋に落ちた若い女、億万長者の家には事故死した前妻レベッカの面影が色濃く残り...
- 制作：VBW、脚本・作詞：ミヒャエル・クンツェ、作曲：シルヴェスター・リーヴァイ  
演出：フランセスカ・ザンバーロ
- 初演：2006年 ウィーン、ライムンド劇場（2022年にも再演）
- 公演：13カ国、3千回以上、2.7百万人以上が観劇
  - 欧州：オーストリア、ドイツ、チェコ、フィンランド、イギリス、ハンガリー、ルーマニア、ロシア、セルビア、スウェーデン、スイス（11カ国）
  - アジア：日本、韓国（2カ国）
  - 言語：ドイツ語、チェコ語、フィンランド語、ハンガリー語、ルーマニア語、ロシア語、セルビア語、スウェーデン語、日本語、韓国語、英語（11カ国語）
- **日本初演**
  - 東宝 2008年 翻訳：竜真知子、演出：山田和也



# ルドルフ - ザ・ラスト・キス

## RUDOLF - AFFAIRE MAYERLING

- 大成功を収めた「エリザベート」に続き、VBWが制作したハプスブルグ家の末期を描くもう一つのストーリー
  - オーストリア帝国ルドルフ皇太子の真実の物語、多感で改革を夢見た若者がハンガリーの政敵と自身の恋の情熱に翻弄される、マイヤーリングでの愛する人との謎の最期、大掛かりな舞台装置と素晴らしい照明技術の中で行われる華やかで抒情的なダンス、初演はハンガリーで行われた
- 制作：VBW、脚本・作詞：ジャック・マーフィー、作曲：フランク・ワイルドホーン  
演出：デビッド・ルボー
- 初演：2006年 ハンガリー・ブダペスト（ハンガリー語版）、2009年 ウィーン
- 公演：4カ国、750回以上、60万人以上が観劇
  - 欧州：ハンガリー、オーストリア（2カ国）
  - アジア：日本、韓国（2カ国）
  - 言語：ドイツ語、ハンガリー語、日本語、韓国語（4カ国語）
- **日本初演**
  - 東宝 2008年 演出：宮本亜門（2012年にデビッド・ルボー演出版で再演された）

# 貴婦人の訪問 - THE VISIT

## THE VISIT - Drama with a vengeance



- スイスの劇作家フリードリヒ・デュレンマットの1956年の名作をミュージカル化、悲観的な社会風刺と暗くゆがんだラブストーリー
  - 世界的に裕福な未亡人の復讐、戻ってきたスイスの故郷の街は財政破綻し彼女の支援を頼みにしている、未亡人は引き換えに若かった頃の恋人の死を願う、何があったのか、悲しい悲劇の結末を迎える、初演はスイスの野外劇場で行われた
- 制作：VBW、脚本：クリスチャン・シュトゥルペック、作詞：ウルフガング・ホファー  
作曲：モーリス・シュナイダー&マイケル・リード、演出：アンドレアス・ゲルゲン
- 初演：2013年 スイス・トゥルン、2014年 ウィーン
- 公演：5カ国、270回以上、26万人以上が観劇
  - 欧州：スイス、オーストリア、ドイツ、オランダ（4カ国）
  - アジア：日本（1カ国）
  - 言語：ドイツ語、オランダ語(フレミッシュ)、日本語（3カ国語）
- **日本初演**
  - 東宝 2015年 演出：山田和也

# 陽気なドン・カミロ

## DON CAMILLO & PEPPONE



- イタリア人のジョバンニ・グアレスキの1948年のベストセラー喜劇を1951年にフランス人ジュリアン・デュビビエが風刺映画に仕立てたもののミュージカル化  
ドイツ語圏で最も成功した作演出家のクンツェがイタリア人の人気作曲家ダリオ・ファリーナと組み、スイスのザクトガレン劇場の協力を得て制作した
  - 1947年のイタリア田舎町、喧嘩っ早いカソリック司祭のドン・カミロと穏やかだが頑固な新市長のペポネ、2人は町を2分してことごとく意見が合わない、そこに大洪水が起こり、それぞれの側の子供が恋に落ち... ロミオとジュリエットのように上手く収まるのか
- 制作：VBWとスイス・ザクトガレン劇場との共同制作  
脚本・作詞：ミヒャエル・クンツェ、作曲：ダリオ・ファリーナ  
演出：アンドレアス・ゲルゲン
- 初演：2016年 スイス・ザクトガレン、2017年 ウィーン
- 公演：3カ国、180回以上、14万人以上が観劇
  - 欧州：スイス、オーストリア、ドイツ（3カ国）
  - 言語：ドイツ語（1カ国語）
- **日本**
  - 未上演

# シカネーダー

## SCHIKANDER - The turbulent love story behind The Magic Flute



- 天才モーツアルトのオペラ「魔的」の台本を手掛けたもう一人の天才エマニュエル・シカネーダーとその妻エレノオーレの物語、ブロードウェイやウエストエンドで活躍するスティーブン・シュウォルツを作詞・作曲に、トレバー・ナンを演出に迎えたVBWの新作
  - 本物のバロック時代のオペラハウスと見間違える舞台セットに600個のキャンドル、当時の生地で作った衣装にモーツアルトの時代のオーケストラ、1751年に生まれたシカネーダーはやがてウィーンのフライハウス劇場の支配人となり、ドイツ語オペラの革命となる「魔的」の台本を書き、自らもパパゲーノ役で舞台に立つ、その初演の指揮者はモーツアルト本人だった
- 制作：VBWとスイス・ザンクトガレン劇場との共同制作  
脚本：クリスチャン・シュトゥルペック  
作詞・作曲：スティーブン・シュウォルツ（ウィケッド）  
演出：トレバー・ナン（キャッツ、レ・ミゼラブル）
- 初演：2016年 ウィーン、ライムンド劇場
- 海外公演：なし
- **日本**
  - 未上演

# 故郷(ふるさと)は甘き調べ I am from Austria-Viennese love story



- VBWの新作コメディ、エレガントで可愛らしくて気の利いたウィーンの町を舞台にオーストラリアの国民的シンガーソングライター、レインハルト・フェンドリッヒの1990年のヒットソング「I am from Austria」に乗せて
  - ウィーンの老舗高級ホテルにハリウッドのスター女優がお忍びで帰って来る、ホテルの御曹司と世界的スターの新しい恋の訪れと昔の恋の再燃で大騒ぎ
- 制作：VBW  
脚本：クリスチャン・シュトゥルペック、作詞・作曲：レインハルト・フェンドリッヒ  
演出：アンドレアス・ゲルゲン
- 初演：2017年 ウィーン、ライムンド劇場
- 公演：2カ国、560回以上、80万人以上が観劇
  - 欧州：オーストリア（1カ国）
  - アジア：日本（1カ国）
  - 言語：ドイツ語、日本語（2カ国語）
- **日本初演**
  - 宝塚 2019年 演出：齋藤吉正

# ロック・ミー・アマデウス

## ROCK ME AMADEUS

### - The Falco Musical



- 前作から6年振りの新作  
オーストリアが誇るシンガーソングライター「ファルコ（本名 ヨハン・ヘルツェル）」はどうやって世界のスターダムを駆け上って行ったのか
  - 6千万枚のレコードセールスと27カ国でナンバー1になったヒットソングの数々  
特に、1984年の映画「アマデウス」のヒットを受けてクラシックの偉人モーツァルトを茶化した「ロック・ミー・アマデウス」は1986年に英語圏ではないアーティストによる全米1位となった、ショー形式での歌と圧倒的なダンスを大掛かりなステージセットと目もくらむような衣装で見せる
- 制作：VBW  
脚本：クリスチャン・シュトゥルペック、編曲：マイケル・リード  
演出：アンドレアス・ゲルゲン
- 初演：2023年 ウィーン、ロナチャー劇場
- 海外公演：なし
- 日本
  - 未上演

# マリア・テレジア

## MARIA THERESIA

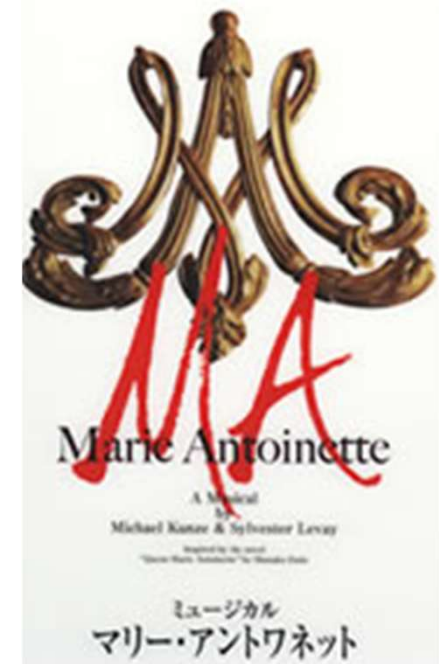
### - Stronger than you think



- VBWの最新作、クリスティアン・シュトゥルペックが4作目で脚本から制作総指揮に副題に「Stronger than you think」とし、ハプスブルグ家を初めて女性として相続し、女帝となったマリア・テレジアの力強い女性の生き方を多面的に描く
  - フランツ1世を深く愛する妻であり、国の改革と戦争に立ち向かう専制君主であり、そして子供たちを厳しく教育する母、その子供たちは国を超えて政略結婚へ向かって行く（娘の一人であるマリー・アントワネットは作中には登場しない）
- 制作総指揮：クリスティアン・シュトゥルペック（VBW）  
作曲：ディーター&パウル・ファルク（親子）、作詞：ヨナサン・ツェルター  
脚本：トーマス・カフリー、演出：アレックス・バルガ
- 初演：2025年 ウィーン、ロナチャー劇場  
（2025年10月10日初日～現在、2026年12月末までのチケット販売中）
- 海外公演：なし
- 日本
  - 未上演

# (参考) マリー・アントワネット

## Marie Antoinette



- 日本の東宝で制作・初演されドイツで改訂が行われた、オーストリア・ミュージカルを手掛けたミハエル・クンツェとシルヴェスター・リーヴァイのコンビが参加しているがVBWとは関係なくオーストリアでの公演はない
- 日本の輸出ミュージカルのひとつ、海外上演の際には各地の興行的要請に応じた演出やキャラクターの変更を許し、ドイツでの改訂(2009年)・再改訂(2012年)を経て日本の初演版とは別物となって輸入され、2018年になり新演出版として公演された  
(当初想定したオーストリアとフランスへの輸出は両国の反発で頓挫)
- 2006年 日本初演  
制作：東宝、原作：遠藤周作の小説「王妃マリー・アントワネット」  
脚本・歌詞：ミハエル・クンツェ、音楽：シルヴェスター・リーヴァイ  
演出：栗山民也、翻訳・訳詞：竜真知子
- 2009年 ドイツ初演 (ブレーメン)  
制作：ドイツ・ブレーメン劇場、脚本・歌詞：ミハエル・クンツェ  
音楽：シルヴェスター・リーヴァイ、演出：ハンス=ヨアヒム・フライ
  - フランス革命に基づくストーリー建てとし「ベルサイユのばら」的な古い価値観の犠牲者像から、ドイツ的で高慢かつ放埒で同情を誘わない姿に変え、観客は批判的に見つめる内容に変更
- 2018年 日本再演  
制作：東宝、脚本・歌詞：ミハエル・クンツェ、音楽：シルヴェスター・リーヴァイ  
演出：ロバート・ヨハンソン

# ウィーン・ミュージカルの歴史

- ❑ ミュージカルは1940年代にニューヨークで成立し世界へ広がる、オーストリアは第2次世界大戦で敗戦国、1955年に独立を回復し1956年にはアメリカミュージカル「キス・ミー・ケイト」を上演したがアメリカへの反発やオペレッタとの類似性もありあまり受け入れられず
- ❑ 1970年代、現代社会をテーマとするミュージカルの同時代性が認識され、英米作品の招聘公演に始まりオリジナル作品への試行錯誤が始まる
- ❑ 1990年代、ウィーン劇場協会（VBW）によるオリジナル作品の制作が始まる  
但しウィーン都市圏の人口約2百万人はニューヨーク都市圏2.2千万人、ロンド都市圏9百万人に比べ小さく、またクラシック音楽を楽しむ観光客からの集客も難しく、オリジナル作品はロングラン公演ではなく海外への輸出（海外での公演）を目指すことに
- ❑ 1992年エリザベート、1997年ダンス・オブ・ヴァンパイヤ、1999年モーツァルト！とヒット作が生まれ、欧州域内とアジアへの輸出公演が実現、特にアジア（日本と韓国）への輸出公演（海外でのローカル化）で成功した、但しアメリカ、イギリスではあまり評価を得られず
- ❑ 今後、ウィーンを含むドイツ語圏での新作の制作はどうなるのか  
VBWは市民の税金で運営され、クラシック音楽を芸術の中心とするウィーンではその収益性とともに関心を失ったとの見方がある、一方ドイツは地理的にイギリスにより近く音楽や舞台芸術は英語との親和性も高くオリジナル作品へのニーズは弱いとも言える（中央大学高橋慎也教授）

# ウィーン・ミュージカルの日本でのローカル化

- 英米のミュージカルがオリジナル演出やロゴを世界共通とするコピー方式（レプリカ公演）を取ったのに対し、VBWは演出やキャラクターの変更から内容面での改訂も認めたのは後発のウィーン・ミュージカルが世界の商業演劇に定着するための生存戦略であった
- 日本版は、キリスト教的な「神」との関わりや「神」の裁きを暗示させるダークな演出（これはウィーン・オペラ由来でもある）を避け、日本人の嗜好に合わせ、特に「エリザベート」は恋愛劇に変更しエンディングは主人公の幸福感を演出し成功した  
配役にはスターシステムを採用、「モーツァルト！」からダブルキャスト制も導入し、ひとつの公演を複数回見に行く「リピート観劇」への付加価値を高めた（田中里奈氏論文）
- また「マリー・アントワネット」のように、日本オリジナル作品がドイツで再演出され、逆輸入され日本で好評を得るなど、日本とドイツ語圏のミュージカルの交流が深まった
- 更に、韓国はウィーン・ミュージカルのドイツ人演出家を招き「マタ・ハリ」「エクスカリバー」「ベートーベン」「フランケンシュタイン」等をオリジナル制作し、海外輸出に成功

## 【参考文献】

### 明治大学/田中里奈博士の論文

Globalization History of Musicals between Viena and Japan (2019) [file:///C:/Users/nicks/Downloads/CV\\_20241102\\_tanaka\\_2020\\_kokunichi.pdf](file:///C:/Users/nicks/Downloads/CV_20241102_tanaka_2020_kokunichi.pdf)

ウィーン発ミュージカル「エリーザベト」の脱境界性 <http://human.kanagawa-u.ac.jp/gakkai/student/pdf/i11/110325.pdf>

「マリー・アントワネット」の興行史をめぐって (2020) [https://www.jstage.jst.go.jp/article/ijstr/71/0/71\\_1/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/ijstr/71/0/71_1/_pdf/-char/ja)

### 立命館大学/宮本直美教授の論文

「老貴婦人の訪問 Der Besuch der alten Dame」における音楽構造 (2018年) [https://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/rb/655/655PDF/Naomi\\_Miyamoto.pdf](https://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/rb/655/655PDF/Naomi_Miyamoto.pdf)

### 中央大学/高橋慎也教授による講座

舞台芸術作品の日欧比較 ～恋愛観・死生観・歴史観の表現方法～ (2024年) [https://www.chuo-u.ac.jp/crescent/course\\_list/detail/304/](https://www.chuo-u.ac.jp/crescent/course_list/detail/304/)